

国際教養・教育センターの国際交流活動への取り組み

— 2022年度の活動報告 —

Approach to International Exchange Activities of the Center for International and Liberal Arts Education

— 2022 Activity report —

経済経営学部現代経営学科

片上 摩紀

KATAKAMI, Maki

Department of Contemporary Business

Faculty of Economics and Business Administration

要旨：本学では、地域との連携、他の教育機関との連携、学内の国際化を推進する活動の3種類の国際交流活動を実施してきた。新型コロナウイルスの影響で2020年度はほとんどの活動が中止になったものの、2021年度になり、オンライン化も進めつつ、再開され始めた。そこで、2022年度はWithコロナ時代を迎え、どのような形で国際交流活動が実施されているのか、取り組み内容を振り返り、課題や効果、前年度との変化を考察した。その結果、前年度と比べ、他の教育機関との交流、日本人学生と留学生の共修を進めるための学内の文化交流活動が増加していた。

Abstract：Our university has carried out three types of international exchange activities: collaboration with the local community, collaboration with other educational institutions, and activities to promote internationalization within the university. Although most activities were canceled in 2020 due to the new coronavirus, they have begun to resume in 2021, with some moving online. Therefore, in 2022, as we enter the era of Corona, we looked back at the content of our efforts and considered the challenges, effects, and changes from the previous year to see how international exchange activities are being carried out. As a result, compared to the previous year, there was an increase in cultural exchange activities within the university to promote exchanges with other educational institutions and co-study between Japanese and international students.

キーワード：国際交流、異文化理解、留学生、地域社会、オンライン

1. はじめに

新型コロナウイルスの影響により、2020年度より教育活動は制限されてきた。本学の国際交流活動においても、地域と連携した交流活動を中心にほぼ全ての活動が中止となり、学内外の横のつながりが著しく減少した。しかし、2021年度になり徐々に国際交流活動やイベントも再開され始め、片上（2023）では、2021年度は、地域での対面イベントが減少した一方で、オンラインを利用した国内外での交流活動が増加し、国際交流の新しい形が見えるようになったと述べられている。

本学の国際交流活動は、留学生への文化体験活動の提供だけではなく、留学生が母国の言葉や文化を紹介する活動を通して、地域との横のつながりを構築すること、学内の日本人学生と留学生の交流が活発化することを目指している。そのために、国際教養・教育センターでは、「地域と連携した国際交流活動」「教育機関と連携した国際交流活動」「学内の国際化を推進する交流活動」という3種類の国際交流活動を行ってきた。

本稿では、2022年度に実施された国際交流活動の取り組み内容を振り返り、学生が実施後に書く報告書をもとに、課題や効果を考察し、Withコロナ時代の国

際交流活動の実施状況の変化を考察する。

2. 留学生の国際交流活動

2.1 留学生数・国籍

本学は、3学部5学科で成り立っており、2022年度は5月時点で、238名の留学生が経済経営学部在籍している。

留学生の出身国は、ベトナム、中国が多く、タイ、韓国、インドネシア、台湾、ニュージーランド、ネパール、フィジー、オーストラリア、ブラジル出身留学生もいる。

2.2 留学生の国際交流活動

本学が実施する国際交流活動としては、倉敷市、早島町、奈義町、矢掛町など地域と連携した国際交流活動、小学校や高等学校など教育機関と連携した国際交流活動、学内の国際化をはかる国際交流活動の主に3種類の活動を実施してきた。本学の留学生は、日本人との交流を通して、日本人の文化や習慣の理解、学内外との人間関係の構築、コミュニケーション力の向上を目的として参加するが、ある程度慣れてくると、国際交流以外の活動に幅広く興味を持つようになることから、1、2年次生が中心となり参加している。

2.3 2022年度の国際交流活動のねらい

2022年度の国際交流活動のねらいは下記の通りである。

- ① Withコロナ時代の新たなオンライン国際交流活動とコロナ前のような対面での交流活動を両立し、どちらにも対応できるようにする。
- ② 留学生の日本文化体験のみならず、日本人と留学生が人間関係を構築できる交流活動を実施する。

Withコロナ時代に、学外との連携を再度深め、いかにコロナ前の連携状態に戻せるかが課題であろう。

3. 2022年度の国際交流活動内容

3.1 地域との連携

2022年度は、岡山県内の早島町、倉敷市（倉敷国際ふれあい広場実行委員会）、奈義町（Nagi国際交流ネットワーク）、矢掛町（矢掛インターナショナルフェスティバル実行委員会）と連携をとり、国際交流を実施した。ここでは、活動の概要、当日の様子や学

生が記述した報告書から考えられる活動の効果を述べる。

3.1.1 早島町との連携

早島町は、平成27年に「教育のまち・早島」を宣言し、地域とつながる教育を重視している。早島町教育委員会（2020）によると、「世界で活躍できる知と力と志を育てます。相手意識に立った国際人としての心の教育・共に生きる力を培うために。」と述べられており、英語教育に力を入れ、国際理解教育を重視していることが分かる。

そこで、留学生と交流する機会を提供するだけでなく、英語を母国語とした留学生の文化を紹介することによって、英語教育へのモチベーションを高めてもらうことを目的として、イベントを実施した。

(1) 留学生クイズ&トーク

早島町の留学生クイズ&トークは、留学生の母国の紹介やクイズを通して、子どもたちに日本と世界の違いを知ってもらうことを目的に実施したイベントである。児童生徒の夏休みに実施した。

・実施日時 2022年8月5日 10:00~12:00

・実施場所 早島町ゆるびの舎

・内容 留学生の異文化紹介・ゲーム

(ベトナム・ニュージーランド・オーストラリア)



本イベントでは、ベトナム、ニュージーランド、オーストラリア出身の留学生による母国の文化紹介を実施した。小学生でもわかる動物の話をきっかけとして、マオリ文化など幅広い内容を紹介することによって、小学生にとっても新たな知識を吸収するきっかけとなっただろう。

学生の報告書¹⁾には、「自分の日本語はあまりうまくなかったが、言いたいことを言えないときには先生が助けてくれた。故郷のこと、故郷の文化のことを話すことができ、とてもいいイベントだった。」と書かれてあることから、学生にとっても日本語で自分の文化について子どもたちに伝えた際に感じた達成感や彼らにとって良い機会となったようだ。

(2) 早島花ごぞピンポン世界大会

2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止になった大会が2021年度から開催され、2022年度も開催された。留学生の母国の食品を販売する「早島ショップ」にはベトナムと中国の学生が、選手としては、中国、ベトナム、日本の学生が参加した。また、インドネシアと中国出身の留学生2名が実行委員として参加し、事前の会議にも参加し、早島町と連携して準備し、当日もショップ運営及び大会運営を担っていた。

・スケジュール

2022年9月3日 実行委員会①

2022年10月22日 実行委員会②

2022年11月19日 大会当日

・実施場所 実行委員会：早島町ゆるびの舎

大会会場：早島中学校

・内 容 大会・ショップ運営

ベトナム・中国の食品販売

選手として大会参加



実行委員会は、早島中学校、倉敷高等学校の学生、商工会、卓球クラブ等地域の方で組織され、大会運営、早島ショップ、広報・音響の3つの分科会に分かれている。本学実行委員の学生は大会運営、早島ショップの仕事を担当することになった。大会運営では、本学の英語教員の協力もあり、事前に司会原稿の正しい英語での通訳を行い、当日は日本語司会を中学生・高校生が、英語司会を本学の留学生が担当した。早島ショップでは、コロナの影響で、手作り食品の販売は禁止となり、市販の商品の販売を行った。

実行委員として、大会運営を担当した学生は、報告書の中で、「イベントは事前のスケジュール通りにうまくいかないことがあるので、自分はいろいろな場合に備えてスタンバイしなければならないと感じた。」と大会運営の難しさに触れ、今後のイベント運営への学びも得たようである。また、ショップ運営を担当した実行委員の学生は、報告書で「最初、あまりお客さんが来なかったので、他の店舗経営を参考にして、宣伝方法を変えたら、だんだんお客さんが来始めた。店

を経営する楽しさはずっと覚えていると思う。このイベントは、経営方法と日本語の会話を学ぶいいチャンスだった。」と述べ、イベント運営によって、日本語力の向上のみならず、自分の経営知識も磨かれる機会となったことも感じていたようだ。また、選手として参加した学生は、「大会のおかげで、楽しい時間を過ごすことができた。来年度も参加しようと思っているし、実行委員として取り組んでみたい。」と述べており、実行委員として奮闘する姿を見て、自分も挑戦したいという思いを持った学生もいる。

早島町との交流は子どもから大人まで、幅広い年代の方との交流が可能になる。2021年度と比較すると、数は少ないものの、Withコロナに合った形で対面実施をすることができた。交流を通じて、学生の専門である経営・マーケティングの知識も磨かれ、留学生にとっても難しさはあるものの、充実したイベントとなったようだ。

3.1.2 奈義町との連携

Nagi国際交流ネットワーク主催の「異文化交流日帰りキャンプ」は外国人講師として2021年度に続いて、2回目の交流活動である。このイベントは「①子どもたちが仲間や岡山県に住むさまざまな国の人と協力しながら、体験活動をする。②体験活動を通じて文化のちがいに触れることで、異文化への興味、関心を育てる。③岡山に暮らすさまざまな国の人がどのように岡山で生活しているのかを知り、多文化共生社会について考えるきっかけとする。」を目的として実施された。

・実施日時 2022年8月4日 9:20~16:30

・実施場所 那岐山麓山の駅 いろり家

・スケジュール

9:20 集合・事前打ち合わせ

10:00 自己紹介・アイスブレイク

10:30 野外での多言語クイズラリー

12:00 昼食

13:30 言語インタビュー活動

14:30 異文化体験活動

(ベトナム・ニュージーランド・オーストラリア)

15:30 振り返り

16:15 解散



ニュージーランド出身留学生の報告書では、「1つの場所にさまざまな文化を持つ人が集まる経験は最高だった。子どもたちから質問をされ、母国の文化を紹介しただけではなく、大学卒業後の夢がプロのラグビー選手であると話したとき、子どもたちは興奮して、応援してくれると言ってくれたのがうれしかった。」と述べられていた。本活動は地域の子も達だけではなく、留学生、地域に暮らす外国人も講師として参加していたので、異文化交流を強く実感できる機会となったようだ。また、イベントには、それぞれの夢を語る場もあり、コミュニケーション能力だけでなく、自己表現できる機会を得ることにもつながったと言える。

3.1.3 倉敷国際ふれあい広場実行委員会との連携

倉敷国際ふれあい広場は、倉敷市が毎年10月に開催している大規模なイベントで、日本人と外国人市民の相互交流の機会を提供し、地域の国際化を推進するイベントとして毎年開催される。2020年度は、新型コロナウイルスの影響で中止、2021年度はオンラインでの開催を経て、2022年度は感染対策をしつつも、対面とオンラインのハイブリッドで開催することができた。



- ・実施日時 2022年10月16日 10:00~15:30
- ・実施場所 倉敷市芸文館
- ・内 容 文化・民族衣装紹介
(ベトナム・中国・インドネシア・ブラジル)
フリーマーケット
世界の料理 (テイクアウト)

ステージパフォーマンス

おしゃべりCafé (オンライン)

本学の留学生は、「文化・民族衣装紹介のワークショップ」「おしゃべりCafé (オンライン)」を担当することになった。

このイベントでは、小さな子どもからお年寄りまで、さまざまな年代の方と交流の機会を持つことができた。報告書でインドネシア出身の留学生は、「一番感動したことは一人の年輩の方がインドネシアの詳しい情報を言ってきたときのことだ。その年輩の方に『インドネシアに行ったことありますか?』と聞いたら、その年輩の方は『行ったことないけど、このようなイベントから学んでいるので、機会があれば行きたい』と答えてくれた。このようなイベントのおかげで、ほかの国の文化に興味を持ってくれるのだろうと私は思い、その時からもっとたくさんの人にインドネシアのことを教えたい、または、ほかの国のことも教えてもらいたいという気持ちがわいた。」と述べていた。国際交流イベントが地域の人に与える影響の大きさを実感し、よりよいものにしていきたいという思いが沸き上がったようだ。

3.1.4 矢掛インターナショナルフェスティバル

このイベントは、2019年度までは、「ベトナム・フェスティバルin矢掛」という名前で、矢掛町に多数暮らしているベトナム人の方と地域の方々の交流のために開催されてきたイベントで、新型コロナウイルス感染拡大後2年間は中止されてきた。2022年度からは「矢掛インターナショナルフェスティバル」と名前を変えて、矢掛町で暮らす外国人と地域の方々の交流のために開催された。

- ・実施日時 2022年11月27日 11:00~15:30
- ・実施場所 水車の里フルーツピア
- ・内 容 外国の料理ブース・ステージイベント
文化交流スペース

本学からは、多数の日本人学生・留学生と様々な学生が協力し、料理提供、ベトナムのバンブーダンスでのステージ出演、日本人学生と留学生のステージ司会として参加した。

ベトナム料理のブースを運営した留学生の報告書では、「調理のプロセスは大変で、ほかのグループより販売が遅れてしまいました。しかし、私たちは自分たちのグループの料理に誇りを持って出すことができました。」「ステージでは、ニカラグアの伝統舞踊、タイ語の歌を聞いて、感動しました。ベトナムの伝統的

な屋台ダンスが披露されると、ベトナムが恋しくなり、感動しました。」と述べられていた。このことから、自分たちの国の良さを改めて感じ、他の国の文化にも触れるきっかけとなるイベントになったことが分かる。

3.2 他の教育機関との連携

3.2.1 小学校との交流

小学校の国際理解の授業の一環で、例年小学校を訪問し、異文化や海外の遊びを紹介している。2020年度は新型コロナウイルスの影響で実施できず、2021年度はオンラインでの実施となったものの、2022年度は対面で実施することができた。

・岡山市立幡多小学校

前期後期それぞれ1回ずつ：互いの文化紹介

留学生は普段小学校に行く機会はないため、実際の小学校の教室、過ごし方を知る貴重な機会となったことだろう。

3.2.2 国内の他の教育機関との交流

新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、他の教育機関でも交換留学や異文化理解の機会が減少し、2022年度も高校とオンラインで国際交流イベントを実施できた。また、新たに専門学校からも交流の依頼を受け、本学での国際交流授業を開講した。

・岡山市立岡山後楽館高等学校（オンライン）

1時間程度のオンライン国際交流を3回実施

決まったテーマで日本語でのグループディスカッションを行った。

・専門学校ビーマックスとの文化交流（対面）

本学の校舎を使用し、留学生が母国の文化を紹介し、専門学生は自身の専門分野をいかして、ビジネス場面で使用する敬語やマナー、日本の文化を教えるなど文化交流を実施した。

・岡山県立玉島高等学校との英語交流（対面）

本学の英語教員と英語が話せる留学生が運営。

英語を使ったアクティビティーを実施。

オンラインの交流会は、時間をかけて高校生と日常的な話題から互いの学校、社会的なことまで話すことができたようで、報告書でも「日本と中国の高校生活の違いを分析することによって、異なる社会環境と社会背景の下で育って異なる教育方式があることがわかりました。それぞれの長所と短所があり、教育の面でも社会的な問題を見ることができました。」と述べられており、文化を比較することで、社会的な問題まで

意識するようになったことが分かる。

専門学校の学生との交流会では、同年代の学生との交流だったこともあり、これをきっかけに友達のように仲良くなっている学生の姿が見られた。地域の幅広い年齢層の方との交流だけではなく、日本の同年代の学生との横のつながりを広げるきっかけになったようだ。

3.2.3 海外との交流

オンライン交流が一般化してきたことから、2022年度も下記の大学と交流活動を実施した。

・IPU New Zealand

ニュージーランドに入学できていない日本人学生や現地で学ぶ日本語学習者との交流

・広東外語外貿大学

全4回で、本学経済経営学部の学生と日本語・日本文化を学ぶ中国人学生とのグループディスカッションを通じた交流

特に、中国人学生においては、細井・片上（2022）によると、満足度が高く、中国人学生からイベント以外に継続的に交流を続けたいという意見も上がるほど有意義なものを提供することができた。

3.3 学内の国際化

学内の日本人学生、留学生が共修を進め、良好な人間関係を構築すること、イベントを企画運営できる学生を育成することを目的として、下記の通り学生を主体とした国際交流イベントを実施した。

(1) 留学生による外国語講座

実施日 2022年6月、7月に定期開催

会場 環太平洋大学 各教室

内容 留学生の母国語を日本人に教える。（英語・中国語・韓国語・ベトナム語）

(2) 日本人学生によるお茶会企画

実施日 2022年7月21日

会場 環太平洋大学ハーモニー2階

内容 留学生に日本の茶道文化の紹介、茶道サークル指導による抹茶・和菓子体験など

(3) 日本文化学習～犬島日帰りtrip～

実施日 2022年9月8日

場所 犬島

内容 犬島内の散策、地域の人の生活や芸術巡り交流アクティビティー

(4) 環太祭「エスニックカフェ」

実施日 2022年10月29-30日

場 所 環太平洋大学時計台校舎1階
 内 容 ベトナム・中国・韓国・タイのお茶, お菓子提供
 文化・民族衣装紹介

(5) 世界のお正月体験企画

実施日 2023年1月20日
 場 所 環太平洋大学ディスカバリー
 内 容 ベトナム・中国・日本の正月遊び体験
 文化・民族衣装紹介, パフォーマンス

2022年度も、飲食に制限はあったり、カラオケなど感染拡大が懸念される企画は制限されていたものの、制約がある中で、どうすれば誰もが楽しめるかと運営学生が考え、話し合うことは、新たなアイデアを出す良い経験になったと感じる。また、2021年度よりも学内交流が増え、活発化したことは、日本人学生と留学生が人間関係を構築することを促進したと言える。ただ、その一方で、単発的な参加になってしまい、継続的に来てくれる学生は一部にとどまっている。

4. 2021年度の国際交流活動との比較

2022年度の国際教養・教育センターで実施した活動を表1にまとめた。2021年度と比べ、他の教育機関からの対面イベントの新規依頼が増えている。これは、本学の認知度の高まりによるものと言える。また、学内の国際化を推進するべく、2021年度よりも学内交流イベントを増加させた。このことにより、学生が主体的にイベントに取り組むだけでなく、日本人学生と留学生の人間関係の構築を図ることができた。

その一方、2019年と比べて、地域と連携した国際交流活動が大幅に減少している。新型コロナウイルスで

表1 2022年度に実施した学外交流一覧

今年度実施のイベント	2019	2021	2022
早島町留学生クイズ&トーク	対	対	対
早島町花ごぎピンポン世界大会	対	対	対
奈義町日帰りキャンプ	×	対	対
倉敷国際ふれあい広場	対	オ	対
矢掛町インターナショナル(ベトナム)フェスティバル	対	×	対
小学校との国際交流	対	オ	対
岡山後楽館高校との国際交流	×	オ	オ
玉島高等学校との英語交流	×	×	対
専門学校との国際交流	×	×	対
IPUNew Zealand との交流	×	オ	オ
中国の大学との交流	×	オ	オ

※「対面実施」を「対」,「オンライン実施」を「オ」と表記

多くのイベントが中止され、地域との連携が弱くなったと言わざるを得ない。今後は、地域との連携、ネットワークも強固にし、国際理解の推進に努めたい。

5. おわりに

本稿では、2022年度に国際教養・教育センターで実施された国際交流活動の内容、その実施の効果や課題点についてまとめた。2020年度、2021年度に構築したオンライン交流のノウハウをいかした上で、コロナ前と同様の対面実施の交流イベントも多数実施することができた。また、異文化理解の機会提供のために他の教育機関と連携して、国際交流の場の提供を行うことで、ネットワークづくりも可能となった。

今後、地域との連携を強めつつ、学内の国際化もより図っていきたいと思う。

(注1) 記述内容の日本語の誤りは、回答者の意図を変えないよう正しく記述し直している。

参考文献

早島町教育委員会 (2020) 『早島町学校教育ビジョンの推進』早島町教育委員会
 倉敷市 倉敷国際ふれあい広場2022
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/39941.htm>
 (2023年12月1日閲覧)
 細井駿吾・片上摩紀 (2022) 「日本の大学生との交流が海外の学習者に与える気づき」『日本語教育方法研究会誌』29号, pp.40-41
 片上摩紀 (2023) 「国際教養・教育センターの国際交流活動への取り組み—コロナ禍における2021年度の活動報告—」『環太平洋大学紀要』22号, pp.33-38